令和５年度

「いわての復興教育」

実践事例集

令和６年３月

岩手県教育委員会

「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」実践事例

学校名：釜石市立釜石中学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

東日本大震災では、生徒と教職員に人的被害はなかったが、家屋の被害、親の失職など今までの生活を維持することができなくなった家庭が約２割、被災認定家庭が約３割あった。校舎は、避難所と釜石東中学校との共同利用がされた。様々な制約があったが、「正常な学校運営」を目指して努力がなされてきた。しかし、生徒や保護者に被災に対する意識の差があり、配慮が難しかったという記録が残っている。その後、令和２年に日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による津波想定で、新たに本校も浸水地区に入ることが発表された。西側にも津波に備えなければならない地域が広がった。また、2019 年には、台風 19 号の豪雨によって、土砂災害、浸水といった災害に襲われており、近年は、学区全体が極めて災害リスクの高い地域になりつつある。

この現状を踏まえ、本校では、「命を大切にする学習」、「社会に参加する学習」、「地域を支える学習」の３つを課題とする「生き方学習」を３年間の中で履修することとしている。また、今年度から新たな取り組みとして『釜石復興マイスター』認証制度を設け、「防災の知識、技能、実践力を身につけ、自他の命を守る行動ができる人材となっていること」「郷土の良さを発見し、郷土のために貢献しようとする意欲を持つ人材となっていること」を目指し、復興教育に力を入れている。

■復興マイスターチェックリストより抜粋

釜石復興マイスターチェックリスト

２年　　組　　番 氏名

学年	日にち	内容項目	授業内容	資料学習	事前学習参加	当日参加	まとめ参加
例 1年	5/8	防災知識	身近な自然災害	○	○（参加したら）	△（欠席の場合）	○
2年	/	防災意識	個人テーマに沿った学習リストの作成				
2年	8/31	防災知識	震災列車 宿泊研修				
2年	9/1	防災訓練	避難所運営訓練				
2年	/	防災知識	災害への備え				
2年	/	防災行動	まち歩き				
2年	/	地域理解	職場体験				
2年	/	防災訓練	避難訓練				

本事業は、2 学年を対象とし、震災学習列車を活用しながら宿泊研修を行い、その行程の中で震災遺構や施設の訪問、語り部事業への参加、避難所運営体験など様々な震災学習形態を通して、先に挙げた人材の資質を養うことを目標とした。

Ⅱ　取組の概要

１　事前学習

（１）オリエンテーション

７月３日に全体オリエンテーションを行い、ねらいや各学級の日程の確認等を行った。

	1組	2組	3組	4組
8/31	防災リュック 震災列車	大槌フィールドワーク 震災列車	大船渡伝承館 甚石海岸	防災ゲーム
	防災ゲーム 甚石海岸	大船渡ガイド	陸前高田丸ごとガイド 津波伝承館	陸前高田丸ごとガイド 津波伝承館
9/1	避難所運営 津波伝承館	避難所運営 津波伝承館	避難所運営 震災列車	避難所運営 震災列車

震災学習列車を活用しながら様々な体験活動を行うこと、陸前高田市にある野外活動センターに宿泊し、２日目に学年全員で避難所運営体験を行うことをガイダンスした。

（２）個人目標の設定

各学級の訪問先や活動内容を把握した上で、個人テーマを設定し、タブレットを使用して下調べを行った。

２　具体的な取り組み

（１）　震災学習列車の活用（全学級）

１、２組は宿泊研修１日目の往路、３、４組が２日目の復路として釜石駅ー盛駅間を利用した。震災当時の様子や、復興への道のりについてガイドさんのお話を聞く中で、被害状況や復興についての理解を深めるとともに、三陸鉄道と地域とのつながりについて知ることができた。

震災当時の話を聞いている様子

（2）防災リュック学習（1組）

いのちをつなぐ未来館で防災ワークショップを行った。避難に備えておくべきものを考え、防災リュックの中身を考えることで、災害に備える力や防災意識を高めることができた。

（3） 防災 AR ゲーム（1、4組）

キャッセン大船渡を出発点とし、避難場所である加茂神社まで問題を解きながら時間内にたどり着くゲームの中で、震災を疑似体験することができた。どうすべきか判断を迫られる場面の中でより良い判断をするため、震災について正しく理解することや日頃の備えの大切さを実感することができた。

（4）大槌フィールドワーク（2組）

大槌語り部ガイドでは、旧町役場跡地や被災時に避難場所として機能した高台、津波を乗り越えた宝来島等を訪れた。

（5） 大船渡ガイド（2組）

盛駅発のバスにガイドさんに同乗していただきながら大船渡市内の防潮堤に書かれたトリックアートや震災遺構、海辺に建てられた愛の鐘などを見学した。

（6） 大船渡津波伝承館訪問（3組）

俳優・横道毅さんによる紙芝居「吉浜のおゆき」を鑑賞し、東日本大震災以前の津波による被害や震災の歴史について学ぶことができた。

（7）　陸前高田丸ごとガイド（3、4組）

旧気仙中学校から奇跡の一本松までガイドさんのお話を聞きながら歩き、当時の様子について詳しく学んだ。中学校内では被災当時のまま残された瓦礫を見ることができた。

（8）　津波伝承館訪問（全学級）

【生徒のレポートより】

津波伝承館では3月11日に起きた出来事を場所ごとに詳しく学ぶことができました。実際の映像や壊れた車、看板を見学して津波の恐ろしさを実感しました。そして、日頃の備えが大切で、避難は自分のためだけでなく周りの人のためにもなることを知ることができました。これから私たちができることは、学んだことや3.11の経験を風化させないために、防災を常に意識しながら次の世代にこのことを伝えていくことです。

（9）避難所運営体験（全学級）

【生徒のレポートより】

段ボールベッドは意外と壊れず、丈夫なことがわかった。非常食を実際に食べることができた。非常食はカロリーを優先しているからパサパサしているのかな、と思った。色んな種類があることが分かった。（中略）学んだことを生かして防災リュックや非常食を用意しておこうと家族で話すことができた。

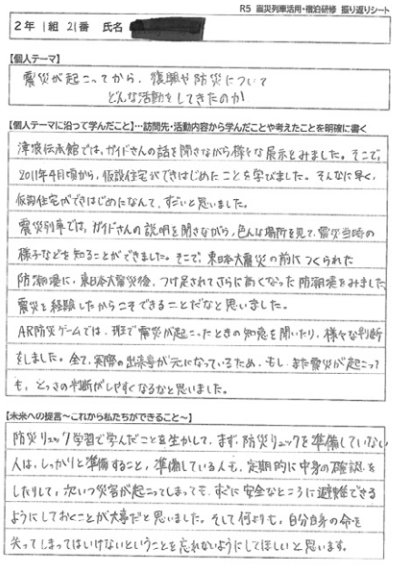
3　事後学習

（1）　個人レポート作成

事前に設定した個人テーマに沿って、各訪問先や活動で学んだことをレポート形式でまとめた。また、「未来への提言」としてこれから私たちができることを考えて提示した。

【未来への提言より】

僕たちがこれからできることは、震災による被害を減らすことです。高台に避難する、ハザードマップを確認する、学んだことを生かせば被害を少しでも減らせるし、多くの人の命を救えるようにするために僕たちが行動しなければいけません。家族、友人など大切の人の命を失くさないために活動して取り組んでいきたいです。



R5 震災列車活用・復路研修 振り返りシート

2年 1組 21番 氏名 [redacted]

【個人テーマ】

震災が起こってから、復興や防災についてどんな活動をしてきたのか

【個人テーマに沿って学んだこと】…訪問先・活動内容から学んだことや考えたことを明確に書く

津波伝承館では、ガイドさんの話を聞きながら様々な展示をみました。そこで、2011年4月頃から、仮設住宅ができはじめたことを学びました。そんなに早く、仮設住宅ができはじめになんて、すごいと思いました。

震災列車では、ガイドさんの説明を聞きながら、色んな場所を見て、震災当時の様子などを知ることができました。そこで、東日本大震災の前につくられた防潮堤に、東日本大震災後、つけ足されて さらに高くなった防潮堤をみました。震災を経験したからこそできることだなと思いました。

AR防災ゲームでは、実際で震災が起こったときの知恵を聞いたり、様々な判断をしました。全て、実際の出来事が元になっているため、もし、本当震災が起こっても、どうさの判断がしやすくなるなと思いました。

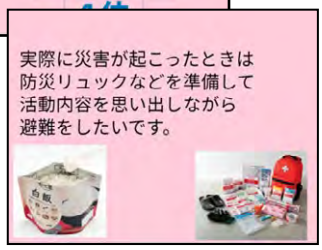
【未来への提言～これから私たちができること～】

防災リュック学習で学んだことを生かして、まず、防災リュックを準備していない人は、しっかりと準備すること、準備している人も、定期的に中身の確認をしたりして、次いつ災害が起こってしまっても、すぐに安全なところに避難できるようにしておくことが大事だと思いました。そして何よりも、自分自身の命を失ってしまってはいけないということを忘れないようにしてほしいと思います。

（2）　学年発表会

４学級×６班の計 24 グループが、それぞれ１つの活動（訪問先）を選択し、ロイロノートを使用して発表を行った。

【発表会スライドより】



（3）文化祭での発信

学年発表会で選ばれた代表グループで、発表内容をまとめて発表を行った。

（4）　個人新聞作成

震災学習にその後行われた職場体験で学習したことを加え、総合的な学習の時間のまとめとして個人新聞の作成を行った。

Ⅲ　取組の成果と課題

1　成果

・震災学習列車を利用し、三陸鉄道がこれまで地域のために行ってきた企業努力や、地域住民にどれだけ愛されてきたかなど理解を深めるとともに、地域を誇りに思う気持ちを持つことができた。

・震災学習列車活用と宿泊研修を併せて震災学習の内容を広げたことで、複数の訪問先や活動で得た情報を統合して考えることができ、より深い学びにつながった。そのことが、事後のレポートや発表内容からもうかがうことができた。

・「未来への提言」として自分たちができることを考えることで、周囲の人や郷土のために貢献しようという意識につながった。

2　課題（今後の取り組み）

・学んだことを様々な場面で想起させながら、防災意識を持ち続けること、地域や次の世代に発信していくことが大切だと思われる。

・今後の学習においても、継続して「防災の知識、技能、実践力を身につけること」「自他の命を守る行動ができるようになること」「郷土の良さを発見し、郷土のために貢献しようとする意欲を持つこと」を目指して活動させていきたい。